

funicular! Golfery



中垣ゆたか LONG INTERVIEW

ロングインタビュー

【にんじゃくんがいる！篇】

『にんじゃくんがいる！』のはじまり、はじまり。

『にんじゃくんがいる！』のキャラクター。

『にんじゃくんがいる！』のワンシーン。

『にんじゃくんがいる！』のカラー。

『にんじゃくんがいる！』原画展の見どころ。

これからの『にんじゃくんがいる！』。

『にんじゃくんがいる！』の
はじまり、はじまり。

担当編集者 K さん

『にんじゃくんがいる!』（あかね書房）の担当編集者 K さんは、1 作目の絵本『ぎょうれつ』（偕成社）の編集者さんと友達だったんです。編集者さんたちって、お互いライバルでもあるけど、みなさん仲がよくて横の繋がりが結構あるみたいです。それこそフジロックとか一緒に毎年行ってるらしいですよ。『ぎょうれつ』って処女作だったんで、青山の DAZZLE ってギャラリーで原画展をやったんです。その時に K さんが来てくれて、初めてお会いしたんです。

つまり、僕が絵本作家 1 年目の時からちょこちょこお会いしていたんです。「絵本を一緒に作ろう」ってお互い言っていたんですが、なかなか実現せずにいたんですよ。打ち合わせで何かしらは決まるんですけど、家に帰って思い返したらあんまりよくなかったとか、ラフを描いて出しても「何かこれではないね」みたいなことで、行ったり来たりしていました。そのうちラフの中に、にんじゃくんの原型みたいなのがあって、これが面白いんじゃないかとなって始まりました。

幽霊→忍者への変わり身

はじめは幽霊のお話を作っていたんです。学校に幽霊がいて、幼稚園の年長さんに“小学校はどんなところか”を説明するようなお話にしようとしていました。

その幽霊は自分にしか見えなくて、他の人には見えない設定だったんですけど、これってありきたりですよ。そこで、＜他の人も見えるはずなのに、なぜか僕にしか見えない＞って設定にすると面白いんじゃないかと思ったんです。靈感や超能力がなくても＜誰でも見えるはず＞にするなら、幽霊ではないものにしないではいけない。それなら、忍者にすれば、みんなに見えるはずだということで、幽霊から忍者になりました。忍者がそこにいるけど、誰も気づかないで自分だけ気づいてるってことがやりたかったんです。

僕は忍者がもともと好きで、過去すでに忍者の絵本を2冊出していました。同じ絵本という媒体だし、もう忍者モノで絵本は出せないと思ってたんですけど、出版社さんが「いいと思います」と言ってくれたので、忍者をテーマに描くことになったんです。

まさかの「わざと無視している」疑惑、からの…

お話の設定が決まると、編集者さんが会社で会議をして、そこで出たいろんな意見を共有してくれるんですが、＜みんなに見えるはずなのに見えない＞設定がいじめみたいなことじゃないかって意見が出たらしいんです。そこにいるけど、みんなわざと無視してることにならないかって。

歌のページでも、最初はにんじゃくんもみんなと一緒に列になって歌ってたんです。それでみんな気がつかないというのは、確かにちょっと無視っていう感じですよ。

そこで、＜にんじゃくんは少しずつ色々な場所に隠れている＞ことにすればいいんじゃないかとなりました。みんなに見えないように変装して隠れているとか、分身の術とか水遁の術とか、ザ・忍者みたいなことを入れたいって言った気がします。そうすると、他の人には見えなくて、でも自分だけ気づいてるってかたちで成立するんです。



『にんじゃくんがいる！』の
キャラクター。

鶏ガラっぽい？絶妙な体のバランス

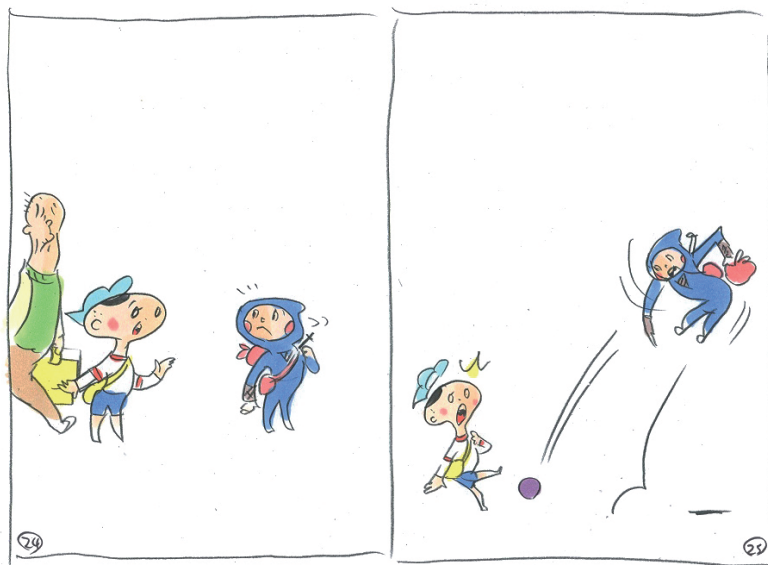
このお話は幼稚園とか保育園のような場所が舞台なんですけど、今まで3歳～5歳児くらいの子が主役のお話を作ったことがなかったんです。だから、絵の描き方についても、本当に微々たるものなんですけど、いつもの描き方から体のバランスを変えたんですよ。顔が大きくて、手足が細長くて、背はちっちゃい感じ。首を長くすると幼稚園児っぽく見えないんです。小学生みたいにずんぐりむっくりした感じでもなくて、もっと鶏ガラっぽく細いイメージというか…。子どもを描くのって難しかったです。



にんじゃくん、目立たせつつ、目立たせすぎず……

にんじゃくんは、他の絵本の忍者とかぶらなければいいと思ったんですよ。だから、これまでにいない、ずっと笑っている子にしました。いつも笑っていて表情がコロコロ変わらず、あんまり喋らない静かな子にして、見つけにくいようにしました。

服はもともと青色か紫色で考えていたんです。ただ、青は他の忍者の絵本で使ったことがあったので無し。それで紫の方は編集者Kさんと相談する中で「確かに映えるけど、にんじゃくんを探す絵本だから、あんまり見つからないようにもっと黒っぽい方がいい」ということになって、今の色にしたんです。でも、そうするとなんだかすごい地味で、なんでもない普通にいる一般的な忍者になっちゃったんですよね。キャラクターっぽくないなって。それで、ほっぺをつけてみたんです。ほっぺも、他の子と違う感じで、ちゃんと枠で囲った赤いほっぺにしました。





この赤いスカーフは最初からつけていたかな。忍者の修行で、走っている時にスカーフが地面につかないようにタタターって走っていく修行があったようで、それをやりたかったんです。スカーフをつけることで「この子はまだ修行中の身なんだな」ということが分かるんです。最終的には修行中の身として目立つ色で、一番しっくりきた赤い色になりました。

ちゃんとした普通の男の子、ミチルくん

実はミチルくんの方はあんまり考えてなかったんです。ここまでたくさんミチルくんが出てくる本を作ろうと思ってなかったんですよ。でも、この子がしゃべって物語が進んでいくから重要な役わりで、ちゃんとした子にしなければなと思いました。ということで、結構普通の子になっちゃったんです。

それでも、まあいいかと思って。にんじゃくんと2人で一緒に立った時に、あまりにミチルくんが個性的な子になるとおかしい。今一緒に立たせてみると、そんなに違和感がなくバランスよかったかなと思います。それと、にんじゃくんと同様、ミチルくんも探してほしいって考えもあったんです。ミチル君があまりにも個性的な格好しちゃうと、他の子にも紛れないんですよ。それもよくないなと思って。

ミチルくんの苗字は「ミチ」なんです。名前はなんで「ミチル」ってしたんだっけな…なんかいい子って感じ……あ、城みちる*1だ！「イルカにのった少年」って歌を歌っていて、すごい清純な感じで、当時新人賞とかとって一世を風靡したんですよ。勝手ながらそこから来ているのかなぁと思います。



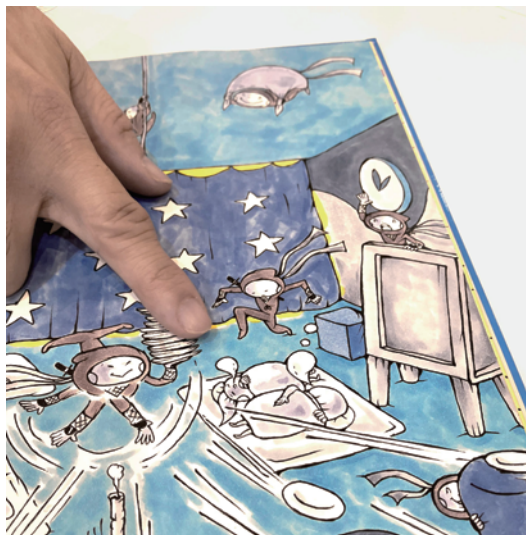
*1_ 歌手。1973年の第7回「スター誕生」でチャンピオンに輝き、翌年の「イルカにのった少年」でデビュー。1974年レコード大賞新人賞を受賞。「ちびまる子ちゃん」のクラスメート、山根君が城みちるの大ファン。

1 人行方不明の緊急事態？個性ゆたかなおともだち

実はにんじゃくんやミチルくん以外の子のことも考えています。恥ずかしがり屋の子がいて、歌ってなかったりちょっと隠れてたり。いつも一緒いる子たちは、一緒に遊んだり、ケンカしたり。ほかにも泣き虫な子がいたり。こんなことを絵本全体でずっと続いているようにして、にんじゃくんを探すこと以外にも楽しめるようにしています。



【おひるねのじかん】のページなんですけど、絵本づくりの最後の最後という段階で、編集者Kさんから「子どもが1人いないです…！」って言われて、あわてて後から1人描き足したんです。余白がちょうどあって描き足したんですけど、めちゃくちゃうまいでしょ！？原画を見ると、もしかしたらアクリル絵の具で白く塗りつぶした跡が分かるかもしれないです。



『にんじゃくんがいる！』の
ワンシーン。

絵本ならではのページのつながり

教室が出てくるページが何枚があるんですよ。シーンによって荷物をちょっと移動させていたり、時計の針をずらしたり、この子はここに座らなきゃいけないとか、同じ教室を描きながら少しずつ変化を持たせることは結構意識しました。イラストの仕事で同じ場所を何度も描くってことはあまりないですよ。つながりを描いたり、動きを描いたりすることって、絵本ならではのだと思います。

【こうさくのじかん】ではじめて教室が出てくるんですけど、カーテンをもともと今より濃いブルーで塗っていたんです。そうすると、【おひるねのじかん】でもっと暗い色にしないと変になることに描いてから気がついて。いつもコピック^{*2}で色を塗っているんですけど、【こうさくのじかん】のカーテンはアクリル絵の具で上から修正しているんです。原画を見ると修正の跡がよく分かるんですけど、印刷だとそのことが全く分からなくてうまくいったなと思います。



保育園とか幼稚園の設定だから、お昼寝のページやおやつの時間も描きたかった。【こうさくのじかん】で作った鶴が別のページで床に落ちているとかね。どの絵本でもそうだと思うんですけど、つながりがちょっとあると面白いですよね。

^{*2} イラストや漫画、デザインの分野で使用されているアルコールインクのカラーマーカー。

室内プールで遊んでもらおう

プールの場面は絶対やりたかったです。

ミチルくんには、はじめは長袖を着せちゃってたんです。それに合わせて他の子もそれなりに冬っぽい格好でした。進めているうちに、プールはもともと外にある設定で描いていたんですけど「なんか冬にプールっておかしいよね」って話になったんです。これも原画を描いている最中でした。だから室内プールにしようってなったんです。幼稚園や保育園なら私立が多いので、室内のプールを持っているところもある。温水プールということにして、お風呂みたいにして入ってる子を描いてみちゃったりして、そうやってなんとか乗り切った。小学校だったら室内プールって多分高級な学校にしかないですもんね。



『にんじゃくんがいる！』の
カラー。

配色のこだわり？いや、全然ないんですよ。例えば緑を使ったら、その横のスペースは緑を使わないにしようとかそんな感じです。

好きな色はあります。赤と青と黄色は好きですね。

赤は、前に出てくる色なので全体的にちりばめて使います。逆に青は画面を締める時に使って、ちょっと裏方みたいな感じ。緑や黄色は本当に使い勝手がいいから、結構いっぱい使ってもそこまで目立って出てこないのが好きなんですよね。コピックの場合だけだと思うんですけど、黄色ってムラが出なくて、すごい広いところに塗っても大丈夫なのでよく使っています。あとオレンジもパキッと出るので結構好きですね。

これだけ使ってコピックで描いているから、なんかサッカー選手がスポーツメーカーと契約するとスパイクがもらえるみたいに、コピックも提供されたいです。すぐインクがなくなるんですよ。コピックの作戦にはまって多分相当しぼり取られてます。

「にんじゃくんがいる！」はカラフルだけど、実は使っている色は20色くらいかも。僕が描く時は大体いつも同じ色を使っています。いつも使っていない色だと、なんだか浮いちゃって変に思っちゃうんですよね。でも必要な時は新しい色もいれていきます。このコートの色も本当はあまり使ってない色だったんですけど最近は結構使いますね。差し色で使ってみるといい効果になる時があるんですよね。



『にんじゃくんがいる！』原画展の
見どころ。

やっぱりコピックの色の感じ……蛍光が強い感じとかは、印刷だと出ないんですよね。もちろん絵本は絵本の色で完璧なんですけど、読者さんにとってはこの印刷の色しか普段見れないじゃないですか。原画の色は全く違うってことは面白いポイントの一つなんじゃないかな。他にも修正してあるところを探してみたりするのもいいですね。

それと原画展は、ページ全部が一度に並べられるんで、それってなんかすごく得したなって思っちゃうんです。ページをめくって1枚1枚でいつも見るけど、全部を一気に並べて見るって機会は僕もめったにない。並べると結構な枚数あるんだなって思います。サイズ感も生で見ないとわからないですよね。

あとは、原画は、なんていうかちょっとデコボコ盛り上がりってるイメージがあるんです。例えば、インクがドブプリした黒線の、立体とまではいかないですけど、のっぺりとしてない、ちょっと立ち上がって見えるというか、そういうところを楽しんでもらうといいかな。やっぱり原画と印刷物の違いって、なかなか見る機会がないし、そこが原画展の見どころじゃないかと思います。



これからの
『にんじゃくんがいる！』。

今、にんじゃくんの次回作をなんとか頑張って考えてるんですけど、前作に引っ張られちゃうんですよね。にんじゃくんとミチルくんの2人が出てきて、何をさせようか…が難しいところですね。「きみ、にんじゃだよね」という言葉に引っ張られて、前回とは違う展開にするにはどうすればいいんだろうな、と。にんじゃくんのことも、すでに見つけちゃいましたしね。この2人の関係性とかもあるだろうし、どうしようかなと色々試行錯誤しながら考えています。

